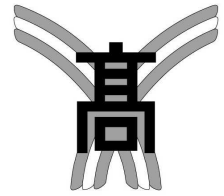


君の授業に乾杯。



【研修会への参加 ありがとうございます】

ご多用の中、ありがとうございました。当初は11月19日に行う予定でしたが、諸事情により2日の開催となりました。特に担任の先生方には面談週間と重複してしまい、大変ご迷惑をおかけしました。



研修会のアンケート結果について報告します。(回答アンケート枚数50枚・未記入2)

時間配分はどうだったか	よかった	まあまあよかった	あまりよくなかった	よくなかった
	24	22	2	0
授業改善のヒントはあったか	あった	まあまああった	あまりなかった	なかった
	27	21	1	0

【コメント】*抜粋

- 昨年学んだ協同学習の考え方をもう一度思い出し、振り返ることができた。一斉指導も必要という言葉は、安心した。
- 目標の提示や振り返りなど、できるところから実践していきたいです。
- 講演では、実際の授業映像・指導案を見ながら話していただいたので具体的なイメージを持つことが出来ました。生徒が課題の研究・知識の活用が出来る授業、見通しがあり自己評価の場がある授業づくりを研究していきたいと思いました。
- 生徒にヒントをあげすぎないこと、生徒が全員理解することをあきらめないことから取り組もうと思いました。
- 思考の過程を誘導するような指示を出して、生徒同士の考え方のコツを作ってあげたい。自分の意見を相手に伝えるために、自分の知識を増やす努力をさせておくことの大切さ、実技への応用を考えていこうと思う。
- 高旗先生の、子どもの立場に立った授業展開の考え方も多くのことを学ばせていただきました。「困ることは大切」という言葉が印象に残りました。一斉授業をベースにしながらALの要素をどのようにとり入れるべきか、考えようと思います。

『「学力向上」の結果とは何かが分からない。たとえば国公立大学の進学率が向上したことか、模試の結果が向上したことか、あるいは他の数値結果が出たことか。具体的な目標は何なのか。』お寄せいただいたコメントの中にはこういったものもありました。ご指摘の通り、また以前からも「成果を数値で示してほしい」という要望は内外からありました。それに対し、委員会は未だ十分な「成果」をお示しすることができていません。

ただ学校の教育の成果の全てを(科学的根拠をもった)数値に置き換えるのは難しいことですし、仮に何らかの成果があったとしても、それを「学力向上の取組の成果だ!」と声高に叫ぶことにはためらいがあります。子どもの成長に関わる要素はあまりにも多く、その成果は、清掃や朝読書の取組、あるいは部活動の指導によるところも多いと考えられるからです。



しかし「だから成果など考えなくてよい」とはなりません。生徒や保護者のニーズは、進学率や模試の結果といった数値においても確実にあります。ただ最も肝心なことは、私たちが授業改善を続け、高旗先生がおっしゃるように一斉講義を基盤としつつ協同学習等を通じて「自立した学習者を育む」こと、そのことに成果があると信じて取組を続けることではないでしょうか。生徒を主体的に授業に関わらせる工夫を続けたその先に、数値としての結果が見えてくるはずだと思います。